

柔道整復学科 昼間1部 1年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
基礎分野	からだの仕組みⅠ	今野 幸太郎	—	30	2	15
	からだの仕組みⅡ	今野 幸太郎	—	30	2	15
	からだの仕組みⅢ	今野 幸太郎	—	30	2	15
	からだの働きⅠ	今野 幸太郎	—	30	2	15
	からだの働きⅡ	山本 恒之	—	30	2	15
	外国語	及川 陽子	—	30	2	15
	健康科学	新井田 和夫	—	30	2	15
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	工藤 久美子	—	30	2	15
	解剖学Ⅱ	山本 恒之	—	30	2	15
	解剖学Ⅲ	長谷川 智香	—	30	2	15
	解剖学Ⅳ	杉浦 透	—	30	2	15
	生理学Ⅰ	長谷川 智香	—	30	2	15
	柔道Ⅰ	八重樫・武藤	◎	30	1	15
専門分野	基礎柔整学Ⅰ	阿部 愛鈴紗	◎	60	2	30
	基礎柔整学Ⅱ	長谷川 源	◎	60	2	30
	基礎柔整学Ⅲ	小倉・阿部	◎	60	2	30
	基礎柔整学Ⅳ	工藤 久美子	◎	60	2	30
	基礎柔整学Ⅴ	武藤 耕太	◎	60	2	30
	基礎実技Ⅰ	杉浦 透	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅱ	長谷川・小倉	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅲ	杉浦 透	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅳ	松田 心一	◎	45	1	22.5
	基礎柔道整復実技Ⅰ	松田 心一	◎	45	1	22.5
	基礎柔道整復実技Ⅱ	小倉・武藤	◎	45	1	22.5
合計				960	41	480

科目名	からだの仕組み I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	今野 幸太郎		
教育目標	生物の基本単位である細胞は核酸、タンパク質、糖質、脂質などの生体分子により構成されている。本授業では、これら生体分子の機能を学ぶことにより、複雑で多岐にわたる人体の構造と機能を理解し、生物学についての基礎的な知識を習得することを目的とする。		
授業内容	以下の項目について講義する 1. 人体の概要 2. 化学および生化学の基礎 3. 細胞の構造と機能		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	人体の概要 1	
2	人体の概要 2	
3	人体を構成する物質（無機化合物）	
4	化学結合・化学反応	
5	人体を構成する物質（糖質）	
6	人体を構成する物質（脂質）	
7	人体を構成する物質（タンパク質）	
8	人体を構成する物質（ビタミン）	
9	人体を構成する物質の代謝（エネルギー）	
10	細胞の構造と機能 1	
11	細胞の構造と機能 2	
12	遺伝子の構造と機能	
13	遺伝のしくみと遺伝病	
14	老化と寿命	
15	期末試験	

科目名	からだの仕組みⅡ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	今野 幸太郎		
教育目標	<p>生物の基本単位である細胞は核酸、タンパク質、糖質、脂質などの生体分子により構成されている。本授業では、これら生体分子の機能を学ぶことにより、複雑で多岐にわたる人体の構造と機能を理解し、生物学についての基礎的な知識を習得することを目的とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する組織 2. 生殖器系 3. 人体の発生 4. 免疫のシステム 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	人体の組織の概要	
2	上皮組織 1	
3	上皮組織 2	
4	疎性結合組織	
5	軟骨組織	
6	骨組織 1	
7	骨組織 2	
8	筋組織	
9	神経組織	
10	生殖器系	
11	人体の発生 1	
12	人体の発生 2	
13	免疫のシステム 1	
14	免疫のシステム 2	
15	期末試験	

科目名	からだの仕組みⅢ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	今野 幸太郎		
教育目標	<p>柔道整復師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。 したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。 そこで本授業では、体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。</p>		
授業内容	<p>本授業では、以下の内容について講義するが、受講にあたっては、①人体を構成する骨および骨の部位の名称、および②人体の主要な骨格筋の名称および起始・停止・作用に関する基礎知識が要求されるので、事前にしっかりと予習しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表(皮膚) 2. 頭顔面部 3. 頸部 4. 体幹 5. 上肢 6. 下肢 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	体表	
2	頭部顔面	
3		
4	頸部	
5		
6	体幹	
7		
8	上肢	
9		
10		
11	下肢	
12		
13		
14	期末試験	
15	期末解説	

科目名	からだの働き I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	今野 幸太郎		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に泌尿器系および生殖器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	以下の内容について講義する。 1. 泌尿器系の構造と機能 2. 腎臓と働きと尿生成 3. 泌尿器系の一般的な作用機序 4. 生殖器系の構造と機能 5. 男性の生殖器 6. 女性の生殖器		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	泌尿器系の構造と機能	
2	腎臓と働きと尿生成	
3		
4	泌尿器系の一般的な作用機序	
5		
6	生殖器系の構造と機能	
7		
8	男性の生殖器	
9		
10		
11	女性の生殖器	
12		
13		
14	期末試験	
15	期末解説	

科目名	からだの働きⅡ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に呼吸器系および内分泌系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鼻腔・咽頭・喉頭・気管(支)・肺の構造と機能 2. 肺胞におけるガス交換・換気量 3. ホルモンの一般的な作用機序 4. 各ホルモンの作用 <p>* 授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	呼吸器の構造と機能	
2	鼻腔・咽頭・喉頭の肉眼解剖	
3	咽頭・喉頭における筋・神経調節	
4	気管・気管支・肺の肉眼解剖と組織像	
5	呼吸を調節する仕組み	
6	肺胞におけるガス交換・換気量	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（呼吸器系）	呼吸器系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
8	内分泌腺およびホルモンの組織像・一般的生理機能	
9	視床下部・脳下垂体・(副)甲状腺のホルモン	
10	消化管ホルモン・膵臓のホルモンおよび血糖値	
11	腎臓・副腎のホルモンⅠ・Ⅱ	
12	生殖器と性ホルモンⅠ・Ⅱ	
13	国家試験対策模擬テスト式授業（内分泌系）	内分泌系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
14	期末試験	
15	期末試験 解答・解説	

科目名	外国語	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	及川 陽子		
教育目標	国際化する社会において、医療の世界にも外国人への医療行為が必要となってきた。ただしそれは必ずしも難解な知識や概念を必要とするものではない。この講義では、医療に関する語彙を知り、現場での医療行為に役立つ基本的な英語力を身につけることを目標とする。		
授業内容	英語という言葉を使っての他者とのコミュニケーション力をつけるため、医療の現場で実際に使われる英会話を学ぶ。 具体的には、基本的な文法の確認、医学英語の基礎知識をふまえた上で 「英語を聞く」 「英語を読む」 「英語を話す」練習をする。 「英語を書く」ことも視野にいれ、適宜、資料を配布し、課題や小テストを行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	Basic English for Medical Care	著者名	Hiroimi Koga
		出版社名	Yumi Press
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	はじめに・自己紹介する・挨拶する	
2	案内は分かりやすくする	
3	個人情報を聞きとり管理する	
4	指示や依頼をする	
5	相手を見て対応する	
6	確認・質問事項を準備する	
7	アレルギーや紹介状の有無を確認する	
8	行為をうながす	
9	的確な指示のもとで援助する	
10	説明は丁寧にする	
11	食物摂取は治療の一環と心得る	
12	患者の言うことに耳を傾ける	
13	電話対応は短くする	
14	会計に関する質問に答える	
15	筆記試験	

科目名	健康科学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	新井田 和夫		
教育目標	健康に恵まれ、楽しく豊かな生涯を送りたいとの願いは誰もが持っている。日々の生活に潤いと充実感をもたらす、一人ひとりが生き生きとした生活をするためには個々に応じた適切な運動やスポーツ活動は欠かせないものである。本授業でのストレッチングはスポーツ障害を起こさない準備運動として開発されたが、現在医学の分野でも大きな効果を上げている。目的に合った正しいストレッチングを理解させ、習得させることを指導方針とする。		
授業内容	<p>学生の年齢構成や男女混成であること、施設が手狭であることを考慮し、基本的な技術を学習し、機能解剖を理解させ、運動療法、ストレッチングの基本的な知識と基本技術の習得を行う。臨床の場でストレッチングを効果的に使えるように学習して行く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ペア・ストレッチング 2. ストレッチング応用編(テクニック) 3. 疾患別ストレッチング・プログラム 4. 障害予防の筋力トレーニング+ストレッチング+キネシオテーピング 5. 体幹トレーニング 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」: 90~100点 「優」: 80~89点 「良」: 70~79点 「可」: 60~69点 「不可」: 59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	座学(スポーツ健康科学)	
3	座学(スポーツ健康科学)	
4	実技(体幹トレーニング)	
5	実技(ストレッチング+キネシオテーピング)	
6	実技(体幹トレーニング)	
7	実技(ストレッチング+キネシオテーピング)	
8	実技(体幹トレーニング)	
9	実技(ストレッチング+キネシオテーピング)	
10	実技(体幹トレーニング)	
11	実技(ストレッチング+キネシオテーピング)	
12	実技(体幹トレーニング)	
13	実技(ストレッチング+キネシオテーピング)	
14	実技(体幹トレーニング)	
15	実技(ストレッチング+キネシオテーピング)	

科目名	解剖学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	工藤 久美子		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に身体を支持する骨・関節および運動に関わる骨格筋を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系概要 2. 骨について 3. 関節について 3. 骨格筋について 4. その他の筋について 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に小テストや中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイダンス・骨の構造	
2	関節の構造	
3	上肢の骨	
4	上指の骨	
5	下肢の骨	
6	下肢の骨	
7	脊椎・胸郭の骨	
8	頭部の骨	
9	上肢の筋	
10	上肢の筋	
11	下肢の筋	
12	下肢の筋	
13	頭部・体幹の筋	
14	復習	
15	期末試験（運動器）解説	

科目名	解剖学Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に神経系および感覚器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の基本構造・組織構造 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 4. 感覚器 <p>* 授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	神経組織の基本構造と自律神経	
2	中枢神経（脳）の構造と機能	
3	中枢神経（脊髄）の構造と機能	
4	反射と伝導路	
5	末梢神経（脳神経）の分布と機能	
6	末梢神経（脊髄神経）の分布と機能	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（神経系）	神経系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
8	国家試験対策模擬・解答解説（神経系）	
9	外皮・味覚・嗅覚の感覚器	
10	視覚器の構造と機能	
11	平衡感覚器の構造と機能	
12	聴覚器の構造と機能	
13	国家試験対策模擬テスト式授業（感覚器）	感覚器に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
14	国家試験対策模擬・解答解説（感覚器）	
15	期末試験	

科目名	解剖学Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 智香		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に循環器系および消化器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系および消化器系の基本的組織構造 2. 心臓と刺激伝導系 3. 動脈・静脈・リンパ系(脾臓を含む) 4. 口腔・咽頭・食道・胃・十二指腸・空腸・回腸・結腸・直腸・肛門 5. 唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓 <p>* 授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血管の基本構造と組織像	
2	心臓および弁の構造と機能	
3	刺激伝導系および心臓機能の神経性調節	
4	動脈の構造と機能	
5	静脈の構造と機能	
6	リンパ系の構造と機能	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（脈管系）	脈管系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
8	国家試験対策模擬・解答解説（脈管系）	
9	粘膜の基本構造と組織像	
10	口腔と咽頭の構造と組織像	
11	食道・胃の構造と組織像	
12	小腸・大腸および消化管ホルモン	
13	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と組織像	
14	国家試験対策模擬テスト式授業（消化器系）	消化器系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
15	期末試験	

科目名	解剖学Ⅳ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	杉浦 透		
教育目標	運動学は人間の身体運動を科学的に研究する学問あり、運動障害をもつ患者を診て治療を行うためには、人間の運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を備えていなければならない。そこで、1年次に学習した解剖生理学の基礎知識を基に、特に運動系について総合的な理解を深めることを教育目標とする。		
授業内容	以下の内容について講義する 1. 運動学総論 2. 運動器の構造と機能 3. 神経の構造と機能 4. 運動感覚・反射・随意運動 5. 上肢の運動 6. 下肢の運動 7. 体幹の運動 8. 姿勢・歩行		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動学総論	
2	運動器の構造と機能	
3	神経の構造と機能①	
4	神経の構造と機能②	
5	運動の感覚、反射、随意運動	
6	上肢の運動器①	
7	上肢の運動器②	
8	中間試験	
9	下肢の運動器①	
10	下肢の運動器②	
11	体幹の運動器	
12	姿勢・歩行	
13	発達・学習	
14	復習とテスト対策	
15	期末テスト	

科目名	生理学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 智香		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な生理機能、特に生体防衛および体温、血圧、電解質、血糖値などをはじめとする人体の恒常性(ホメオスタシス)を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液と血球の機能 2. 凝固系および線溶系 3. 免疫系に関する細胞・因子 4. 体液性免疫と細胞性免疫 5. アレルギー 6. 栄養と代謝 7. 体温調節 8. 血圧調節 9. 電解質調節 10. 血糖値の調節 11. 生体リズム <p>* 授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	生理学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血液と血球	
2	凝固系および線溶系	
3	免疫系に関する細胞	
4	体液性免疫・細胞性免疫	
5	アレルギー	
6	国家試験対策模擬テスト式授業（免疫系）	免疫系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
7	国家試験対策模擬テスト式授業（免疫系）	
8	栄養と代謝	
9	体温調節・血圧調節	
10	電解質調節・血糖値調節	
11	生体リズム	
12	国家試験対策模擬テスト式授業（人体の恒常性）	人体の恒常性に関する過去の国家試験の模擬テストの実施・解説
13	国家試験対策模擬テスト式授業（人体の恒常性）	
14	期末試験	
15	期末試験 解答・解説	

科目名	柔道 I	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	八重樫・武藤		
教員の実務経験	柔道整復師として病院・接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	長年柔道整復師として柔道に関わってきた経験を生かし、礼法、受身、基本動作、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイダンス、柔道小史、礼法	
2	受身、出足払、膝車、支釣込足	
3	浮落	
4	背負投	
5	肩車	
6	浮腰	
7	払腰	
8	釣込腰	
9	送足払	
10	支釣込足	
11	内股	
12	投の形、打ち込み、投げ込み	
13	投の形、打ち込み、投げ込み	
14	総復習	
15	期末試験	

科目名	基礎柔整学 I	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	阿部 愛鈴紗		
教員の実務経験	柔道整復師として付属治療院に数年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいまでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。		
授業内容	柔道整復師としての臨床経験を盛り込みながら、学生がイメージしやすいよう骨折損傷について講義をおこなう。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版	著者名	
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	柔道整復術に必要な骨の分類	
2	柔道整復術に必要な骨の分類	
3	柔道整復術に必要な骨の分類	
4	柔道整復術に必要な骨の分類	
5	骨の損傷	
6	骨の損傷	
7	骨の損傷	
8	骨の損傷	
9	骨の損傷	
10	骨の損傷（症状）	
11	骨の損傷（症状）	
12	骨の損傷（症状）	
13	中間試験	
14	中間試験解説	
15	骨の損傷（合併症）	
16	骨の損傷（合併症）	
17	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
18	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
19	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
20	骨の損傷（予後）	
21	骨の損傷（予後）	
22	骨の損傷（予後）	
23	関節の損傷	
24	関節の損傷	
25	関節の損傷	
26	関節の損傷	
27	総合復習	
28	総合復習	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

科目名	基礎柔整学Ⅱ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	長谷川 源		
教員の実務経験	鍼灸整骨院を30年間経営しその間20年ほど柔整教員を行う		
教育目標	基礎柔整は各論に移る際の足がかりになるものである。、現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家として損傷における基礎的な知識を十分理解することで正しい治療に繋がる。業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。		
授業内容	「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。 1. 各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経) 2. 診察 3. 治療法 4. 外傷予防		
成績評価	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下		

教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版	著者名	
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	関節の解剖および構造	
2	関節の解剖および構造	
3	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
4	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
5	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
6	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
7	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
8	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
9	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
10	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
11	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
12	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
13	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
14	各組織の損傷(関節、筋、腱、末梢神経)	
15	中間試験	
16	中間試験解説	
17	診察	
18	診察	
19	診察	
20	治療法	
21	治療法	
22	治療法	
23	治療法	
24	外傷予防	
25	外傷予防	
26	外傷予防	
27	総復習	
28	総復習	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

科目名	基礎柔整学Ⅲ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	小倉 秀樹・阿部 愛鈴紗		
教員の実務経験	柔道整復師として病院等に長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいままでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。		
授業内容	柔道整復師としての臨床経験を盛り込みながら、学生がイメージしやすいよう骨折、捻挫、脱臼、軟部組織(筋・腱・神経・血管・リンパ管)等の各損傷の概要や治療法、指導管理について講義をおこなう。国家試験問題を中心とした問題演習を行い、柔道整復師に必須な知識の習得を目指す。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版	著者名	
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	骨学	
2	〃	
3	〃	
4	骨損傷の分類	
5	〃	
6	骨折の症状	
7	〃	
8	骨折の合併症	
9	〃	
10	小児骨折・高齢斜骨折の特徴	
11	〃	
12	骨折の癒合日数・治癒経過	
13	骨折の予後・治癒に影響を与える因子	
14	中間試験	
15	中間試験解説	
16	脱臼の分類	
17	〃	
18	脱臼の症状・合併症	
19	〃	
20	脱臼の整復障害・経過と予後	
21	〃	
22	関節包・靭帯の損傷	
23	〃	
24	筋・腱・神経の損傷	
25	〃	
26	診察	
27	治療法	
28	指導管理	
29	外傷予防	
30	期末試験	

科目名	基礎柔整学Ⅳ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	工藤 久美子		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	上肢・下肢の解剖学的特徴および骨や筋の位置関係を学び、そのうえで骨折の発生機序や転位、症状、合併症などについての学習を目的とする。		
授業内容	接骨院の臨床経験を活かした視点で、患者との接し方、骨折に対する知識および対応についてを学ばせる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版 柔道整復学・実技編 改訂版第2版	著者名	
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	機能解剖	必要に応じ 試験日程を変更
2	鎖骨骨折	
3		
4		
5	機能解剖	
6	上腕骨外科頸骨折	
7		
8		
9	機能解剖	
10	上腕骨骨幹部骨折	
11		
12	復習問題	
13	復習問題解説	
14	中間試験	
15	中間解説	
16	機能解剖	
17	前腕骨遠位端部骨折	
18		
19		
20	機能解剖	
21	中手骨骨折	
22		
23	機能解剖	
24	下腿骨骨幹部骨折	
25		
26	復習問題	
27	復習問題解説	
28	総復習	
29	期末試験	
30	期末解説	

科目名	基礎柔道整復学 V	時間・単位	2単位・60時間(30コマ)
担当教員	武藤 耕太		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中での柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。基礎柔道整復学として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。		
授業内容	<p>全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」を教科書とし、身体各部位の損傷各論について、講義を中心に授業を行う。</p> <p>部位については、 1.肩関節・2.肘関節・3.股関節・4.膝関節とし、 損傷については、 1.脱臼・2.軟部組織損傷とする。</p> <p>各部位において、解剖と機能をよく理解した上で、各損傷の発生と所見を学習する。</p> <p>とくに、担当教員の臨床経験から、臨床所見や類症との鑑別に重点をおき授業を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版	著者名	
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	鎖骨部の損傷・機能と解剖	
2	胸鎖関節脱臼・肩鎖関節脱臼	
3	肩関節部の損傷・機能と解剖	
4	肩関節脱臼	
5	〃	
6	反復性肩関節脱臼	
7	肩関節部の軟部組織損傷	
8	〃	
9	肘関節の部の損傷・機能と解剖	
10	肘関節脱臼	
11	〃	
12	肘内障	
13	復習(問題演習と解説)	
14	〃	
15	中間試験	
16	大腿部の損傷・解剖と機能	
17	大腿部の軟部組織損傷	
18	〃	
19	膝関節の損傷・解剖と機能	
20	膝関節部の軟部組織損傷	
21	〃	
22	下腿部の損傷・解剖と機能	
23	下腿部の軟部組織損傷	
24	〃	
25	足関節部の損傷・解剖と機能	
26	足関節部の軟部組織損傷	
27	〃	
28	復習(問題演習と解説)	
29	〃	
30	期末試験	

科目名	基礎実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	杉浦 透		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。		
授業内容	接骨院の臨床経験を活かした視点で、包帯を巻くコツや巻く時の注意事項についてなどをアドバイスしながら、包帯の基本的な扱い方から、固定の方法や種類についてを習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に小テストや中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイダンス、包帯の巻き方、持ち方、包帯巻き器	4裂包帯
2	包帯固定の目的、範囲、肢位	4裂包帯
3	環行帯、螺旋帯、蛇行帯	4裂包帯
4	亀甲帯(肘)	4裂包帯
5	亀甲帯(膝)	4裂包帯
6	折転帯(前腕)	5裂包帯
7	折転帯(下腿)	4裂包帯
8	復習(亀甲帯・折転帯)	
9	上行麦穂帯、下行麦穂帯(肩)	3裂包帯
10	試験練習	
11	中間試験	
12	手関節(麦穂)～(折転含)～肘関節(亀甲帯)	5裂包帯
13	足関節(麦穂)～(折転含)～膝関節(亀甲帯)	4裂包帯
14	足関節(三角帯)	4裂包帯
15	復習	
16	復習	
17	2指・3指	6裂包帯
18	4指・5指	6裂包帯
19	前腕～肘(亀甲帯)～上腕上部:橋渡し	4裂包帯
20	試験練習	
21	試験練習	
22	期末試験	
22.5	復習	

科目名	基礎実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 源・小倉 秀樹		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。身体の役割を担う筋肉や骨・関節の名称・特徴・働きを理解し、身体の動きにどのように連動するかを学ぶ機能解剖を元にギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。</p> <p>近年、柔道整復師に求められる知識・技能のひとつとして「競技者の外傷予防技術」があげられ、治療や応急・救急処置のみならず、傷害予防や関節の補強・矯正にテーピングが使用される場面が非常に多くみられるようになっている。テーピングの基本として、必要とされる正しい解剖学的知識、各部位に応じてのテープの選定、実施の注意点を学び、そののちの実践的なものへとつなげてゆく。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 包帯の使い方(部位別包帯法) 2. 冠名包帯法 3. テーピングの概要 4. 基本テーピング法 5. 部位別テーピング法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	テーピングの目的	
2	足関節のテーピング(アンダーラップ)	
3	足関節のテーピング(スターアップ・ホースシュー)	
4	足関節のテーピング(スターアップ・ホースシュー)	
5	足関節のテーピング(オープンバスケットウィーヴ)	
6	足関節のテーピング(フィギュアエイト・ヒールロック)	
7	足関節のテーピング(フィギュアエイト・ヒールロック)	
8	膝関節のテーピング(MCL・LCL)	
9	膝関節のテーピング(MCL・LCL)	
10	復習	
11	中間試験	
12	中間試験	
13	基本包帯法(麦穂帯)	
14	部位別包帯法 頭部、顔面	
15	冠名包帯法 デゾー包帯	
16	//	
17	冠名包帯法 ヴェルポー包帯	
18	冠名包帯法 ジュール包帯	
19	冠名復習	
20	冠名復習	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	軟性材料固定の総括	

科目名	基礎実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	杉浦 透		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は実技を主体とし副子、ギプス、などの硬性材料も取り入れ、より臨床に即した講義とする方針である。</p>		
授業内容	<p>担当教員が柔道整復の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。 以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定材料の作製と固定例 2. 厚紙副子固定 3. クラメール固定 4. アルミ副子固定 5. 吸水ギプス固定 6. その他の硬性材料による固定 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイドンス 肩関節脱臼(厚紙)	
2	肩関節脱臼(厚紙)	
3	クラーメル副子(肘関節)	
4	クラーメル副子(肘関節)	
5	アルフェンス(環指・小指)	
6	アルフェンス(環指・小指)	
7	中間試験①	
8	クラーメル副子(下肢)	
9	クラーメル副子(下肢)	
10	プライトン(サムスプリント)	
11	プライトン(サムスプリント)	
12	U字シーネ(足関節)	
13	U字シーネ(足関節)	
14	肋骨骨折厚紙	
15	肋骨骨折厚紙	
16	中間試験②	
17	下肢(トウカバースレース)	
18	下肢(トウカバースレース)	
19	上肢バタフライスプリント	
20	上肢キャスト(ミュンスターギプス)	
21	上肢キャスト(ミュンスターギプス)	
22	上肢キャスト(ミュンスターギプス)	
22.5	期末試験	

科目名	基礎実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松田 心一		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>元来、柔道整復術における固定法は整復法、後療法とともに、治療の根幹をなすものであり、その固定法に用いられる材料として絆創膏固定、いわゆるテーピングは重要なものであった。近年、柔道整復師に求められる知識・技能のひとつとして「競技者の外傷予防技術」があげられ、治療や応急・救急処置のみならず、傷害予防や関節の補強・矯正にテーピングが使用される場面が非常に多くみられるようになっている。テーピングの基本として、必要とされる正しい解剖学的知識、各部位に応じたテープの選定、実施の注意点を学び、そののちの実践的なものへとつなげてゆく。</p>		
授業内容	<p>接骨院での臨床経験を生かした患者を診るうえでの解剖学的知識、診察のチェックポイントを教え、患者を治療するための手技療法や運動療法の習得を目指す。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	上肢の解剖学的構造	
2	〃	
3	手技療法および運動療法	
4	〃	
5	上肢の診察チェックポイント	
6	〃	
7	手技療法および運動療法	
8	〃	
9	上肢の触診法、検査法、固定法	
10	〃	
11	手技療法および運動療法	
12	〃	
13	下肢の解剖学的構造	
14	〃	
15	下肢の診察チェックポイント	
16	〃	
17	総合復習	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
23	実技試験	

科目名	基礎柔道整復実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松田 心一		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、柔整学を学ぶ上で必要となる解剖生理学の基礎部分を中心に学んでいく。</p>		
授業内容	接骨院での臨床経験を生かした患者を診るうえでの解剖学的知識、診察のチェックポイントを教え、患者を治療するための手技療法や運動療法の習得を目指す。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下</p>		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	必要に応じ試験日程を変更
2	骨(上肢)	
3	骨(頭部体幹)	
4	骨(下肢)	
5	筋(上肢)	
6	筋(下肢)	
7	復習	
8	中間試験	
9	骨・筋(過去問演習)	
10		
11		
12	脈管(過去問演習)	
13		
14	神経①②(過去問演習)	
15		
16		
17	脳神経(過去問演習)	
18		
19	内分泌(過去問演習)	
20		
21	復習	
22	期末試験	
22.5	期末試験解説	

科目名	基礎柔道整復実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小倉 秀樹・武藤 耕太		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、身体各部位の計測法、手技療法、運動療法、および高齢者に対する機能訓練等についてを学習する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について、担当教員の臨床経験を活かし実践的に指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体計測の概要 2. 上肢の計測法 3. 下肢の計測法 4. 関節可動域の測定法 5. 手技療法 6. 運動療法 7. 高齢者の機能訓練法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・理論編 改訂第7版	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復師と機能訓練指導	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	身体計測の概要	
2	上肢長・周径の計測法	
3	下肢長・周径の計測法	
4	関節可動域(ROM)の測定法: 上肢	
5	''	
6	''	
7	関節可動域(ROM)の測定法: 下肢	
8	''	
9	''	
10	復習	
11	''	
12	中間試験	
13	手技療法の基本	
14	手技療法の応用	
15	''	
16	運動療法について	
17	''	
18	手技療法と運動療法の応用	
19	''	
20	高齢者の機能訓練	
21	''	
22	期末試験	
22.5	総括・復習	

柔道整復学科 昼間1部 2年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
専門基礎分野	生理学Ⅱ	船橋 誠	—	30	2	15
	生理学Ⅲ	乾 賢	—	30	2	15
	運動学	高橋 尚明	—	30	2	15
	病理学概論	飯塚 正	—	30	2	15
	一般臨床医学	春日 優介	—	30	2	15
	外科学概論		—	30	2	15
	整形外科学	大川原 辰也	—	30	2	15
	衛生学・公衆衛生学	本多 丘人	—	30	2	15
	柔道Ⅱ	八重樫・武藤	◎	30	1	15
専門分野	臨床柔整学Ⅰ	杉浦 透	◎	60	2	30
	臨床柔整学Ⅱ	八重樫 正	◎	60	2	30
	臨床柔整学Ⅲ	武藤 耕太	◎	60	2	30
	臨床柔整学Ⅳ	工藤 久美子	◎	60	2	30
	臨床柔整学Ⅴ	工藤 久美子	◎	60	2	30
	基礎柔道整復実技Ⅲ	松田・阿部	◎	45	1	22.5
	基礎柔道整復実技Ⅳ	松田 心一	◎	45	1	22.5
	応用実技Ⅰ	工藤 久美子	◎	45	1	22.5
	応用実技Ⅱ	小倉 秀樹	◎	45	1	22.5
	画像評価実技Ⅰ	小倉・武藤	◎	45	1	22.5
	総合実技Ⅰ	小倉 秀樹	◎	45	1	22.5
	総合実技Ⅱ	阿部 愛鈴紗	◎	45	1	22.5
	臨床実習Ⅰ	阿部 愛鈴紗	◎	45	1	30
	臨床実習Ⅱ	長谷川・松田 工藤・小倉	◎	45	1	30
合計				975	36	502.5

科目名	生理学Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	船橋 誠		
教育目標	<p>1)生理学すなわち生命(いのち)の理(ことわり)を学ぶことにより, ヒトが生きている仕組みを理解する。</p> <p>2)生理学の学習を通じて, 柔道整復師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。</p>		
授業内容	<p>生理学は18世紀から科学的根拠に基づく学問分野(近代生理学)として大系づけられ, 我々の生命の仕組みを解き明かしている。さらに, 最近の生理学の研究は, 生化学, 分子生物学, 細胞生物学などと融合して目覚ましい進歩を遂げている。本講義では生理学の各項目について日常生活でもよくある素朴な疑問から最先端の研究成果なども取り上げる。1年生で学習した生理学の内容についてさらに理解を深め, 知識の定着化を計るために, 狭い範囲ごとに中間試験を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	生理学(改訂第4版)	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	カラー図解 人体の正常構造と機能 (改訂第4版)	著者名	編集 坂井 建雄, 河原 克雅
		出版社名	日本医事新報社

回	講義内容	備考
1	生理学とは<生体のホメオスタシス>	
2	細胞の構造と機能, 生体の機能系, 恒常性と統合機能, 体液	
3	筋肉の生理	
4	神経の生理	
5	神経の生理	
6	運動の生理	
7	感覚の生理	
8	感覚の生理	
9	中間試験 運動まで	
10	内分泌	
11	内分泌	
12	生殖	
13	血液	
14	血液	
15	期末試験	

科目名	生理学Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	乾 賢		
教育目標	1)生理学すなわち生命(いのち)の理(ことわり)を学ぶことにより, ヒトが生きている仕組みを理解する。 2)生理学の学習を通じて, 柔道整復師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。		
授業内容	生理学は18世紀から科学的根拠に基づく学問分野(近代生理学)として大系づけられ, 我々の生命の仕組みを解き明かしている。さらに, 最近の生理学の研究は, 生化学, 分子生物学, 細胞生物学などと融合して目覚ましい進歩を遂げている。本講義では生理学の各項目について日常生活でもよくある素朴な疑問から最先端の研究成果なども取り上げる。1年生で学習した生理学の内容についてさらに理解を深め, 知識の定着化を計るために, 狭い範囲ごとに中間試験を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	生理学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	標準生理学(第6版)	著者名	本郷利憲 他3名
		出版社名	医学書院

回	講義内容	備考
1	骨の生理	
2	循環	
3	循環	
4	呼吸	
5	尿の生成と排泄	
6	尿の生成と排泄	
7	栄養と代謝	
8	中間試験	
9	消化と吸収	
10	消化と吸収	
11	体温とその調節	
12	高齢者の生理学的特徴	
13	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	
14	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	
15	期末試験	

科目名	運動学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	高橋 尚明		
教育目標	1年次に学習した解剖生理学の基礎知識を基に、特に運動系について総合的な理解を深めることを教育目標とする		
授業内容	以下の内容について講義する 1. 運動学総論 2. 運動器の構造と機能 3. 神経の構造と機能 4. 運動感覚・反射・随意運動 5. 上肢の運動 6. 下肢の運動 7. 体幹の運動 8. 姿勢・歩行 9. 運動発達・運動学習		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	運動学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動学総論	
2	運動器の構造と機能	
3	神経の構造と機能	
4	運動感覚・反射・随意運動	
5	上肢の運動(1)	
6	上肢の運動(2)	
7	下肢の運動(1)	
8	下肢の運動(2)	
9	体幹の運動(1)	
10	体幹の運動(2)	
11	姿勢・歩行(1)	
12	姿勢・歩行(2)	
13	姿勢・歩行(3)	
14	運動発達・運動学習	
15	試験	

科目名	病理学概論	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	現在の医学は目覚しい進歩を日々示している。この20年間にあって、医学研究において免疫学的概念の導入と技術的発展があり、さらにこの10年間では、分子生物学といった最先端研究の進歩が医学研究の進展に寄与している。病理学も古い古典的病理学から脱皮し、新しい医学研究の一翼として、その内容や研究方法を変えつつある。こういった医学研究の進歩の著しい環境にあって、柔道整復師を目指しているものが、病理学を通して学んだ知識が将来の自己学習の基礎となりうるように、また柔道整復術を学ぶ基礎となるように講義をすすめる方針である。		
授業内容	基本的には、「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。すなわち、病理学の概略として1. 病理学の意義 2. 疾病の一般 3. 病因 4. 疾病各論についての講義を行うが、病理学を学ぶ上で不可欠な解剖学、組織学、生理学などの知識についてもその概要も交えて総合的に講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	病理学とは・その方法について	
2	疾病の意義と分類・症候の意義と分類・疾病の経過	
3	内因、外因	
4	退行性病変1	
5	退行性病変2	
6	循環障害	
7	中間試験	
8	進行性病変	
9	炎症の一般・分類について	
10	免疫異常、自己免疫異常・アレルギーについて	
11	腫瘍1	
12	腫瘍2	
13	腫瘍各論、先天性異常総論・奇形	
14	運動器疾患	
15	期末試験	

科目名	一般臨床医学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	春日 優介		
教育目標	西洋医学は応用科学の一部門として、科学技術の恩恵を受けて発展してきている。柔道整復師の教育にあつては、西洋臨床医学の占める割合はそれほど高くなく、多くの項目について詳細に言及することはできないが、一般臨床医学は日常臨床医学基礎の上、さらに各論で疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを記述した。そして、日常臨床の場において多い代表的な疾患を学ぶ、理解、習得すれば柔道整復師国家試験出題基準は満たされるものである。		
授業内容	全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学」第3版の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を統括して教示する。即ち、本教科書は「診察概論」「診察各論」「検査法」「主な疾患」の4章から構成されている。教科書に準拠して講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	一般臨床医学 第3版	著者名	
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	総論	
2	総論	
3	総論	
4	呼吸器疾患	
5	循環器疾患	
6	消化器疾患	
7	代謝疾患	
8	内分泌疾患	
9	血液・造血器疾患	
10	腎・尿路疾患	
11	神経疾患	
12	感染症	
13	リウマチ・膠原病・アレルギー	
14	環境要因による疾患	
15	期末試験	

科目名	外科学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員			
教育目標	<p>柔道整復師の教育にあつては、整形外科学以外除いては、外科学の占める割合はそれほど高くなく、多くの項目について詳細に言及することはできないが、外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常臨床の場において遭遇することが多い代表的な外科疾患を学ぶ、理解、習得すれば柔道整復師国家試験出題基準は満たされるものである。さらに日常臨床の場でも使用できるように、実用的な内容にも触れ、外科的知識が役立って適切な治療ができるような柔道整復師となるように、医学的知識を植えつることを図り講義をすすめる方針である</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科学総論 2. 外科学各論 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	外科学概論 第4版	著者名	
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	損傷	
2	創傷	
3	熱傷	
4	炎症と外科感染症	
5	腫瘍	
6	ショック	
7	輸血・輸液	
8	消毒と滅菌・各種手術方法	
9	麻酔	
10	移植と免疫	
11	出血と止血	
12	心肺蘇生	
13	脳神経外科	
14	腹部外科疾患	
15	期末試験	

科目名	整形外科学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	大川原 辰也		
教育目標	<p>柔道整復学は、骨折、脱臼、打撲、捻挫等を徒手を用いて整復し、正常機能を取戻す事を主たる目的とされる事から、整形外科学の中の外傷学の保存的治療の部分と云えなくはないが、急性期疾患への取り組みを主とした整形外科的手法では解決しがたい、原因不明の慢性疾患や、精神的背景を伴う不定愁訴への取り組みも求められる事から、独自の領域を担う学問としてあるのである。取り組みの対象は「運動器」つまり骨、関節、筋、腱、靭帯、神経、血管を含む事から、整形外科学を学ぶにあたり必要となる基礎的事項は共通するものが多い。近年国民の生活様式は大きく変わり、かつ高齢化社会が急速に進み、「運動器」に何等かの障害をもつ人々が日本では約4,500万人とも推定され、生活習慣病「メタボリック症候群」に続く第2の国民病とも云われはじめている。運動器障害は人間の日常生活の質(QOL)を著しく低下させる事から、それを治療、支援する整形外科学、そして柔道整復学の重要性はますます増してきていると云える。この視点に立って学生諸君と共に学びたい。</p>		
授業内容	<p>教材:整形外科学(第4版 南江堂)を基本にすえ、日常遭遇することが多いと考えられる事例を担当教員の経験に照らし、できるだけ具体的に基礎的事項を軸にして授業をすすめる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	整形外科学 第4版	著者名	
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動器の基礎知識・診察法・検査法	
2	治療法・スポーツ整形外科・リハビリテーション	
3	疾患別各論	
4		
5		
6		
7		
8		
9	身体部位別各論	
10		
11		
12		
13		
14		
15	期末試験	

科目名	衛生学・公衆衛生学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	本多 丘人		
教育目標	<p>最終学年になり医学の基礎もかなり身に付いたことと思うが、ここで公衆衛生学を学習したい。</p> <p>公衆衛生学とは、疾病予防と健康の保持増進のための科学であり、活動である。公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>基本的に必要な資料はすべてプリントにて配布するので、資料は生理して保存しておいてほしい。</p> <p>授業は過去の国家試験問題とその類題を理解するために必要な知識や理論について解説していきたい。また後期に始まる統合基礎医学でもさらに理解を深めていきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	衛生学・公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂
参考書	シンプル衛生公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	第1・2章 公衆衛生学と健康	
2	第3章 疾病予防と健康	
3	第4章 感染症	
4	第5章 消毒	
5	第6章 環境保健	
6	第1回試験	60点未満の者は再試験を行う。
7	第7章 母子保健	
8	第8章 学校保健 第9章 産業保健	
9	第10章 成人・老人保健	
10	第11章 精神保健	
11	第12章 生活環境・食品衛生	
12	第13章 地域保健と国際保健	
13	第14章 衛生行政と保健医療	
14	第15章 疫学	
15	第2回試験	60点未満の者は再試験を行う。

科目名	柔道Ⅱ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	八重樫・武藤		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	長年柔道整復師として柔道に関わってきた経験を生かし、礼法、受身、基本動作、対人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイドンス、柔道小史、礼法、受身	
2	浮落、背負投	
3	肩車、浮腰	
4	払腰、釣込腰	
5	送足払、支釣込足	
6	内股	
7	投の形、打ち込み、投げ込み	
8	投の形、打ち込み、投げ込み	
9	投の形、打ち込み、投げ込み	
10	投の形、打ち込み、投げ込み	
11	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
12	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
13	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
14	総復習	
15	期末試験	

科目名	臨床柔道整復学 I	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	杉浦 透		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中での柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷を鑑別するうえでも臨床医学および解剖生理学の基礎を理解をするため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>柔道整復師としての臨床経験を織り交ぜながら以下についての講義をおこなう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能 2. 問題演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション・細胞・生理学の基礎	
2	細胞・生理学の基礎	
3	骨	
4	骨	
5	骨とカルシウム	
6	骨とカルシウム	
7	筋	
8	筋	
9	筋	
10	筋の生理学	
11	筋の生理学	
12	中間試験	
13	内分泌	
14	内分泌	
15	内分泌の生理学	
16	内分泌の生理学	
17	内分泌の生理学	
18	神経	
19	神経	
20	神経	
21	神経の生理学	
22	神経の生理学	
23	神経の生理学	
24	感覚	
25	感覚	
26	感覚の生理	
27	高齢者の生理学的特徴・変化	
28	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	
29	体表解剖	
30	期末試験	

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	八重樫 正		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が出来るよう指導する。		
授業内容	柔道整復師としての現場経験を活かした視点で、実践的な知識と国家試験にも対応できる以下の教育を実施する。 1．柔道整復理論（総論） 2．柔道整復理論（上肢各論） 3．柔道整復理論（下肢各論）		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学(理論編)	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学(実技編)	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	ガイダンス、骨の損傷①	
2	骨の損傷②	
3	骨の損傷③	
4	関節の損傷①	
5	関節の損傷②	
6	筋・腱・末梢神経の損傷①	
7	筋・腱・末梢神経の損傷②	
8	診察	
9	治療法①	
10	治療法②	
11	外傷予防	
12	復習	
13	中間試験	1～11の範囲
14	鎖骨部の損傷	
15	肩部の損傷	
16	上肢の末梢神経障害	
17	上腕部の損傷	
18	肘関節部の損傷	
19	前腕部の損傷	
20	手部の損傷	
21	骨盤部の損傷	
22	股関節部の損傷	
23	大腿部の損傷	
24	膝関節部の損傷	
25	下腿部の損傷	
26	足関節部の損傷	
27	足・足趾の損傷	
28	肋骨骨折	
29	総復習	
30	期末試験	全範囲

備考 授業内で小テストを行うことがある。

科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	武藤 耕太		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷についての理論を植付け、柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>接骨院で実際に診てきた経験を講義におりまぜながら、実際の外傷をイメージしやすいよう、以下についておこなう。 「柔道整復師施設指導要領」に基づき講義する。 1. 各外傷の概説(原因・分類・症状・鑑別診断等) 2. 問題演習</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学(理論編)	著者名	(社) 全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	骨盤部の損傷	
2	骨盤部の損傷	
3	骨盤部の損傷	
4	大腿部の損傷	
5	大腿部の損傷	
6	大腿部の損傷	
7	大腿部の損傷	
8	膝関節部の損傷	
9	膝関節部の損傷	
10	膝関節部の損傷	
11	膝関節部の損傷	
12	膝関節部の損傷	
13	膝関節部の損傷	
14	中間試験	
15	下腿部の損傷	
16	下腿部の損傷	
17	下腿部の損傷	
18	下腿部の損傷	
19	下腿部の損傷	
20	下腿部の損傷	
21	下腿部の損傷	
22	下腿部の損傷	
23	足関節部の損傷	
24	足関節部の損傷	
25	足関節部の損傷	
26	足関節部の損傷	
27	足・趾部の損傷	
28	足・趾部の損傷	
29	足・趾部の損傷	
30	期末試験	

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	工藤 久美子		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。		
授業内容	接骨院での経験を講義の中に生かした形で以下の内容でおこなう。 「柔道整復師施設指導要領」に基づき講義する。 1. 上肢における骨折の概要説明 2. 問題演習		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学(理論編)	著者名	(社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学(実技編)	著者名	(社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	ガイダンス・上肢の機能解剖・上肢の神経障害1	
2	上肢の神経障害2	
3	鎖骨周辺の機能解剖・鎖骨骨折	
4	肩甲骨周辺の機能解剖・肩甲骨骨折	
5	上腕骨近位端部骨折1(骨頭部・解剖頸)	
6	上腕骨近位端部骨折2(外科頸骨折1)	
7	上腕骨近位端部骨折3(外科頸骨折2)	
8	上腕骨近位端部骨折3(結節部・骨端線離開)	
9	上腕骨骨幹部骨折1	
10	上腕骨遠位端部骨折・顆上骨折1	
11	上腕骨顆上骨折2	
12	コンパートメント症候群・フォルクマン(Volkmann)拘縮	
13	上腕骨外顆骨折	
14	上腕骨内側上顆骨折	
15	中間試験	1~14の範囲
16	橈骨近位端部骨折	
17	橈骨骨幹部骨折・ガレアジ骨折	
18	尺骨骨幹部骨折・モンテギア骨折	
19	橈尺両骨骨幹部骨折	
20	橈骨遠位端部骨折・コーレス骨折1	
21	コーレス骨折2	
22	橈骨遠位端部骨折・スミス(Smith)骨折他	
23	手根骨の骨折1	
24	手根骨の骨折2	
25	中手骨骨折1	
26	中手骨骨折2	
27	指骨骨折1	
28	指骨骨折2	
29	期末試験	1~28の全範囲
30	期末試験解説	

科目名	臨床柔道整復学Ⅴ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	工藤 久美子		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。		
授業内容	接骨院勤務時の経験を活かしたかたちで以下の内容についておこなう。 「柔道整復師施設指導要領」に基づき講義する。 1. 上肢における脱臼および軟部組織損傷の概要説明 2. 問題演習		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学(理論編)	著者名	(社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学(実技編)	著者名	(社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	ガイダンス・肩周辺の機能解剖・胸鎖関節脱臼	必要に応じて 試験の回数 日程を変更
2	肩鎖関節脱臼	
3	肩関節脱臼1	
4	肩関節脱臼2	
5	上肢の神経障害1	
6	上肢の神経障害2	
7	肘関節脱臼1	
8	肘関節脱臼2	
9	肘内障	
10	手関節部の脱臼1	
11	手関節部の脱臼2	
12	手指部の脱臼1	
13	手指部の脱臼2	
14	復習	
15	中間試験(1～14の範囲)	
16	肩の軟部組織損傷1 腱板損傷	
17	肩の軟部組織損傷2 上腕二頭筋腱損傷	
18	肩の軟部組織損傷3 肩スポーツ障害1	
19	肩の軟部組織損傷3 肩スポーツ障害2	
20	肩末梢神経障害	
21	肘側副靭帯損傷1	
22	肘側副靭帯損傷2	
23	前腕神経障害1	
24	前腕・手関節の軟部組織損傷	
25	手指の軟部組織損傷1	
26	手指の軟部組織損傷2	
27	手指の軟部組織損傷3	
28	復習	
29	期末試験(1～28の全範囲)	
30	解説	

科目名	基礎柔道整復実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松田・阿部		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。		
授業内容	柔道整復師としての実務経験を活かしながら、以下の各項目に対し講義をおこなう。 1. 各外傷の原因説明 2. 各外傷の分類説明 3. 各外傷の症状説明 4. 各外傷鑑別診断説明 (問題演習含む)		
成績評価	・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	問題演習	
2	問題演習	
3	問題演習	
4	問題演習	
5	問題演習	
6	問題演習	
7	問題演習	
8	問題演習	
9	問題演習	
10	問題演習	
11	問題演習	
12	問題演習	
13	問題演習	
14	問題演習	
15	問題演習	
16	問題演習	
17	問題演習	
18	問題演習	
19	問題演習	
20	問題演習	
21	問題演習	
22	問題演習	
23	期末試験	

科目名	基礎柔道整復実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松田 心一		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。		
授業内容	<p>下肢の診察・鑑別、固定、後療法などについて病院や接骨院で経験した知識を活かし以下の内容について講義をすすめる。</p> <p>柔道整復学各論下肢</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖 2. 下肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説 3. 整復法と固定法および後療法 4. 整復・固定・後療の実技・演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	股関節部の軟部組織損傷	
2	股関節部の軟部組織損傷	
3	問題演習	
4	問題演習	
5	大腿部の軟部組織損傷	
6	問題演習	
7	膝関節部の軟部組織損傷	
8	膝関節部の軟部組織損傷	
9	問題演習	
10	問題演習	
11	中間試験	
12	下腿部の軟部組織損傷	
13	下腿部の軟部組織損傷	
14	問題演習	
15	問題演習	
16	足関節部の軟部組織損傷	
17	問題演習	
18	足趾部の軟部組織損傷	
19	問題演習	
20	復習	
21	復習	
22	期末試験	
23	期末試験解説	

科目名	応用実技 I	時間・単位	45時間・1 単位・22.5コマ
担当教員	工藤 久美子		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。		
授業内容	柔道整復師としての実務経験をもとに以下について講義を実施する。 1. 機能解剖 2. 上肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説 3. 整復法と固定法および後療法 4. 整復・固定・後療の実技・演習		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイダンス(全身状態・合併症)・固定材料作成	
2	鎖骨骨折:診察と検査	
3	上腕骨外科頸骨折:診察と検査	
4	コーレス(Colles)骨折:診察と検査	
5	肩鎖関節上方脱臼:診察と検査	
6	肩関節前方脱臼:診察と検査	
7	肘関節脱臼:診察と検査	
8	復習	
9	中間試験	
10	中間試験	
11	鎖骨骨折の固定	
12	上腕骨骨幹部骨折の固定	
13	コーレス(Colles)骨折の固定	
14	肩鎖関節上方脱臼の固定	
15	肩関節前方脱臼の固定	
16	肘関節後方脱臼の固定	
17	第5中手骨頸部骨折の固定・第2指PIP関節背側脱臼の固定	
18	復習	
19	期末試験	
20	期末試験	
21	統合柔道整復実技演習	
22	統合柔道整復実技演習	
23	統合柔道整復実技演習	

科目名	応用実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小倉 秀樹		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。		
授業内容	柔道整復師としての実務経験を活かし以下について講義をおこなう。 1. 機能解剖 2. 下肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説 3. 整復法と固定法および後療法 4. 整復・固定・後療の実技・演習		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイダンス・固定材料作成	
2	全身状態・合併症・腱板損傷診察・検査	
3	上腕二頭筋損傷診察・検査	
4	ハムストリング肉離れ診察・検査	
5	大腿四頭筋打撲診察・検査	
6	膝関節側副靭帯診察・検査	
7	膝前十字靭帯診察・検査	
8	膝半月板損傷診察・検査	
9	総練習	
10	試験	
11	試験	
12	下腿三頭筋肉離れ診察・検査	
13	膝関節固定(Xサポートテーピング)	
14	下腿骨骨幹部骨折固定・アキレス腱断裂固定	
15	足関節外側靭帯損傷診察・検査	
16	足関節外側靭帯損傷固定	
17	足関節テーピング(バスケットウィーブ・ヒールロック)	
18	総練習	
19	試験	
20	試験	
21	統合柔道整復実技演習	
22	統合柔道整復実技演習	
23	統合柔道整復実技演習	

科目名	画像評価実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小倉・武藤		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師として現場で活躍できるようにさまざま外傷に対応できるよう、基礎的部分の再確認を含め、実践的な対応能力の獲得を目標とする。		
授業内容	担当教員がそれぞれの現場経験を活かし、実践的な治療技術をみにつける。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学(理論編)	著者名	
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学(実技編)	著者名	
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	医用画像について	画像診断について含む
2	医用画像について	
3	医用画像について	
4	医用画像について	
5	肩関節について	
6	肩関節について	
7	肘関節について	
8	肘関節について	
9	手関節について	
10	手関節について	
11	股関節について	
12	股関節について	
13	膝関節について	
14	膝関節について	
15	足関節について	
16	足関節について	
17	大腿部について	
18	大腿部について	
19	下腿部について	
20	下腿部について	
21	総復習	
22	総復習	
23	期末解説	

科目名	総合実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小倉 秀樹		
教員の実務経験	柔道整復師として病院, 接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復を取り巻く環境は大きく様変わりし、柔道整復師に求められる知識・技術も変化している。柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図るために、高度の医学的知識の修得が必須である。また、実技を通してさらに実践的な柔道整復術の正しい理解を促すため講義を進めていく方針である。		
授業内容	柔道整復師はプライマリーケアの一翼を担う存在であるために、初診における診断技術に関する項目と、柔道整復術の技術保存の観点から、次の内容で授業を行う。 1. 損傷の診察に必要な知識, 技術 2. 基礎的解剖生理 これらの内容を、担当教員の実務経験を活かし、実際の業務に即した、実践的なものを、できる限り教授する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 解剖学 生理学 一般臨床医学	著者名	全国柔道整復学校協会監修
		出版社名	南江堂 医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	診察の意義・診察の進め方	
2	医療面接・視診	
3	打診・聴診・触診	
4	生命徴候	
5	感覚検査	
6	反射検査	
7	代表的な臨床症状	
8	生命徴候の測定・生理機能検査	
9	検体検査・運動機能検査	
10	中間試験	
11	骨の解剖生理学	
12	筋の解剖生理学	
13	循環器の解剖生理学	
14	呼吸器の解剖生理学	
15	消化器の解剖生理学	
16	泌尿器の解剖生理学	
17	内分泌器の解剖生理学	
18	生殖器の解剖生理学	
19	神経系の解剖生理学	
20	感覚器の解剖生理学	
21	下肢軟部組織損傷の概要	
22	"	
23	"	

科目名	総合実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	阿部 愛鈴紗		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。その中での柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷を鑑別するうえでも臨床医学および解剖生理学の基礎を理解をするため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	接骨院での臨床経験を生かした患者を診るうえでの解剖学的知識、診察のチェックポイントを教え、患者を治療するための技術習得を目指す。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」:90～100点「優」:80～89点「良」:70～79点「可」:60～69点 「不可」:59点以下</p>		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	脈 管	
2	脈 管	
3	脈 管	
4	脈 管・血液の生理学	
5	循環の生理学	
6	循環の生理学	
7	循環の生理学	
8	呼吸器	
9	呼吸の生理学	
10	呼吸の生理学	
11	中間試験	
12	消化器	
13	消化器	
14	消化器・消化と吸収	
15	消化器・消化と吸収	
16	栄養と代謝	
17	栄養と代謝	
18	泌尿器・生殖器	
19	泌尿器・生殖器	
20	尿の生成と排泄	
21	尿の生成と排泄	
22	生殖器の生理学	
22.5	試験	

科目名	臨床実習 I	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	阿部 愛鈴紗		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、徒手検査法などを学ぶ。		
授業内容	柔道整復師としての臨床経験を活かした視点で、以下の内容を実践的に指導する。 1. 臨床実習の心得 2. 軟部組織損傷の基礎実習 3. 徒手検査		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	臨床実習の心得	
2	医療面接	
3	徒手検査法に必要な解剖・病態把握（脊柱）	
4	徒手検査法（脊柱）	
5	〃	
6	〃	
7	〃	
8	〃	
9	〃	
10	〃	
11	徒手検査法に必要な解剖・病態把握（上肢）	
12	徒手検査法（上肢）	
13	〃	
14	〃	
15	〃	
16	〃	
17	〃	
18	〃	
19	徒手検査法に必要な解剖・病態把握（下肢）	
20	徒手検査法（下肢）	
21	〃	
22	〃	
23	〃	
24	〃	
25	〃	
26	総練習	
27	〃	
28	〃	
29	期末テスト	
30	〃	
備考 必要に応じ中間試験、小テストを実施する。		

科目名	臨床実習Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	長谷川・松田・小倉・工藤		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	新しいカリキュラムでは臨床実習の単位数がふえ、より国民の信頼と期待に応える質の高い柔道整復師を養成するためのものとなっている。ここでは、臨床現場において学び、「医療人としての質を確保」することを目指す。		
授業内容	担当教員が現場経験を活かした視点で、実践的な知識および技術を習得していく。 以下の項目について演習する。 1. 医療面接 2. 受付業務 3. 各部位別の評価法 4. 物理療法 5. 運動・手技療法		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	医療面接	
2	医療面接	
3	医療面接	
4	医療面接	
5	業務内容	
6	業務内容	
7	業務内容	
8	業務内容	
9	各部位別の評価法	
10	各部位別の評価法	
11	各部位別の評価法	
12	各部位別の評価法	
13	物理療法	
14	物理療法	
15	物理療法	
16	物理療法	
17	運動・手技療法	
18	運動・手技療法	
19	運動・手技療法	
20	運動・手技療法	
21	ケーススタディ	
22	ケーススタディ	
23	ケーススタディ	
24	ケーススタディ	
25	ケーススタディ	
26	ケーススタディ	
27	ケーススタディ	
28	ケーススタディ	
29	ケーススタディ	
30	ケーススタディ	

柔道整復学科 昼間1部 3年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
専門基礎分野	リハビリテーション学	武田 涼子	—	30	2	15
	疾病と傷害演習	飯塚 正	—	30	2	15
	保健医療福祉	八重樫 正	◎	15	1	7.5
	関係法規	八重樫 正	◎	30	2	15
	柔道Ⅲ	八重樫・武藤	◎	30	1	15
	柔道整復術の適応	大川原 辰也	—	30	2	15
	社会保障制度	小倉 秀樹	◎	30	2	15
	統合教育科目(Ⅰ)	山本 恒之	—	60	4	30
専門分野	臨床柔整学Ⅵ	杉浦・阿部	◎	60	2	30
	臨床柔整学Ⅶ	渡辺 潤	◎	60	2	30
	臨床柔整学Ⅷ	杉浦 透	◎	60	2	30
	臨床柔整学Ⅸ	杉浦 透	◎	30	1	15
	応用実技Ⅲ	工藤 久美子	◎	45	1	22.5
	応用実技Ⅳ	小倉 秀樹	◎	45	1	22.5
	画像評価実技Ⅱ	小倉 秀樹	◎	45	1	22.5
	総合実技Ⅲ	松田 心一	◎	45	1	22.5
	臨床実習Ⅲ	渡辺・小倉・工藤	◎	45	1	30
	臨床実習Ⅳ	八重樫・杉浦・松田	◎	45	1	30
	統合教育科目(Ⅱ)	工藤・武藤	◎	90	6	45
合計				825	35	427.5

科目名	リハビリテーション学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	武田 涼子		
教育目標	<p>今の高齢化社会において、リハビリテーション医学の重要性はますます高まっている。リハビリテーション医学は多くの職種の専門が集まって、人鋭の患者に共通の目標を持って総合的に治療を行って行く、いわゆるチームアプローチが基本である。現在、地域リハビリテーション医学の充実が必要となり、リハビリテーションの需要がさらに広がっている。その中で患者の持つあらゆる障害に対処していなければならないリハビリテーション医学はその対象が広くなり、専門的な知識と技術を持ち、あらゆる場面に対処できる優秀なリハビリテーションスタッフを養成していくことが必要となっている。柔道整復師としての業務範囲はおのずと制限されるが、広い知識を身につけ、技術の向上に努め、医療分野の一翼を担い、社会の要請に応じられる人材の育成を図り、リハビリテーション医学の講義をすすめていく方針である。</p>		
授業内容	<p>心身の障害を捕らえ方法、すなわち評価と障害に対する治療的アプローチの概要を教授する。障害像では多岐にわたり、学生が理解にも困難さが予測されるが、臨床場面の話をを用い、確実に定着した能力を身に付ける。単元毎に知識の定着を見るために小テストを行い、教授する側のフィードバックとする。国家試験の過去問題も一緒に用いながら、常に臨戦態勢で講義を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	リハビリテーション医学		全国柔道整復学校協会
			南江堂
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	リハビリテーション医学の概念と方法	
2	障害学の三つのレベルとアプローチ	
3	障害学	
4	評価学	
5	治療学	
6	中間テスト	
7	リハビリテーションの実際 脳卒中	
8	リハビリテーションの実際 脊髄損傷	
9	リハビリテーションの実際 切断	
10	リハビリテーションの実際 脳性麻痺（小児）	
11	リハビリテーションの実際 関節リウマチ	
12	リハビリテーションの実際 整形外科疾患	
13	リハビリテーションの実際 肺疾患・心疾患	
14	期末試験	
15	期末試験	

科目名	疾病と傷害演習	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	健康、疾病、外傷及び障害について、その予防と治療に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。		
授業内容	各種疾患および外傷に対し、病理学を踏まえた観察によりその予防及び治療、治療後の予後についての理解を深める。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	病理学からみた疾病と外傷	
2	疾病の意義と分類・症候の意義と分類・疾病の経過	
3	内因性の疾病	
4	外因性の疾病	
5	各種疾病と外傷	
6	各種疾病・外傷の鑑別	
7	中間試験	
8	試験解説	
9	各種疾病・外傷の対応	
10	各種疾病・外傷の予後	
11	各種疾病・外傷の予防	
12	その他の疾患	
13	その他の疾患の鑑別	
14	その他の疾患の対応	
15	期末試験	

科目名	保健医療福祉	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	八重樫 正		
教員の実務経験	柔道整復師として病院、接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代社会においては社会状況の変化に対応して、保健・医療・福祉サービスに関するニーズは、着実に増加するとともに、多様化かつ高度化している。ここでは、柔道整復師として必要な保健・医療・福祉の各社会保障制度の基礎的知識、理解を養うことを主要目標とする。		
授業内容	1. 現代社会の変化と社会保障・福祉の動向 2. 社会福祉の分野とサービス 3. 社会福祉実践と医療		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点「優」:80～89点「良」:70～79点「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	社会保障制度と社会福祉	
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	
3	医療保障	
4	介護保障	
5	所得保障	
6	高齢者福祉	
7	復習	
8	試験解説	

科目名	関係法規	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	八重樫 正		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。		
授業内容	<p>実際に運営している接骨院の業務で重要と考えられる部分を重視しながら以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の意義 2. 柔道整復師法とその関連内容 3. 医療従事者の身分関係法 4. 医療法 5. 薬事法規 6. 衛生関係法規 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	関係法規	著者名	前田 和彦 編著
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	プリント配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	序論	
2	総則	
3	免許	
4	柔道整復師試験	
5	業務	
6	施術所	
7	雑則	
8	罰則	
9	指定登録機関・指定試験機関、附則	
10	医療従事者の資格法	
11	医療法	
12	その他の関係法規	
13	総合復習	
14	総合復習	
15	期末試験	

科目名	柔道Ⅲ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	八重樫・武藤		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	長年柔道整復師として柔道に関わってきた経験を生かし、礼法、受身、基本動作、対人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイドンス、柔道小史、礼法、受身	
2	浮落、背負投	
3	肩車、浮腰	
4	払腰、釣込腰	
5	送足払、支釣込足	
6	内股	
7	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
8	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
9	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
10	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
11	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
12	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
13	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
14	総復習	
15	期末試験	

科目名	柔道整復術の適応	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	大川原 辰也		
教育目標	適切な柔道整復術を行うため、柔道整復が適応されるか否かの判断能力を養う。		
授業内容	整形外科及び一般臨床医学を基本に柔道整復師の業務範囲か否かについて、鑑別方法および範囲外での対処法等の講義をおこなう。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	整形外科学 第4版	著者名	
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	診察について	問題演習を 主体とする。
2	各疾患における特徴	
3	各外傷・疾患の鑑別	
4		
5		
6		
7		
8		
9	各外傷・疾患の対処法	
10		
11		
12		
13		
14		
15	期末試験	

科目名	社会保障制度	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小倉 秀樹		
教員の実務経験	柔道整復師として病院、接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	平成30年度からの柔道整復学校養成施設カリキュラムでは国民の信頼と期待に応える質の高い柔道整復師を養成するため、「社会保険制度」「職業倫理」についても新設された。 そのために、学生の中から「医療経済」「柔道整復療養費受療委任の取り扱い」などを学び、柔道整復師として「医療人としての質の確保」することを目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の社会保障 2. 柔道整復師業務における療養費 3. 職業倫理 <p>これらの内容について、臨床実習の際や、卒業後の業務に対応できる様、講師の臨床経験をもって実践的に様々なケースをあげて学習する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	社会保障制度と 柔道整復師の職業倫理	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	社会保障とは	
2	社会保険制度とは	
3	医療保険制度とは	
4	療養費制度の概要	
5	〃	
6	柔道整復療養費	
7	〃	
8	柔道整復療養費の推移	
9	療養費の算定	
10	療養費請求のケーススタディ	
11	医療従事者の職業倫理	
12	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	
13	柔道整復師の社会的責任と対応	
14	グループ・ディスカッション	
15	期末試験	

科目名	統合教育科目(Ⅰ)	時間・単位	60時間・4単位・30コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、解剖学の基礎医学について再度学習し、基礎医学に関する知識を確かなものにするを教育目標とする。		
授業内容	解剖生理学のまとめ なお、授業の途中で、適宜、中間試験を実施することがある		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動器:総論	
2	運動器:頭部・頸部	
3	運動器:胸部・腹部	
4	運動器:上肢	
5	運動器:下肢	
6	細胞	
7	生殖と発生	
8	組織	
9	循環器:総論	
10	循環器:心臓	
11	循環器:動脈	
12	循環器:静脈	
13	循環器:リンパ管	
14	血液	
15	免疫機構	
16	呼吸器	
17	中間試験	
18	消化器:口腔・食道	
19	消化器:胃・腸管	
20	消化器:肝臓・膵臓	
21	栄養素	
22	泌尿器	
23	内分泌	
24	体温調節・体液調節	
25	神経系の基礎	
26	中枢神経	
27	末梢神経	
28	感覚器:総論・皮膚	
29	感覚器:視覚器・聴覚器	
30	期末試験	

科目名	臨床柔整学Ⅵ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	杉浦・阿部		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復の临床上において、必要不可欠な人体の構造と機能、鑑別が必要な疾患や整形外科的障害及びその病態生理、業務範囲内外の判断に必要な救急知識と関連法規等の知識を柔道整復師国家試験過去問の中から問題を抽出して演習・検討することにより柔道整復師としての知識を習得することを目標とする。		
授業内容	柔道整復師としての実務経験を活かしながら、以下の各項目に対し講義をおこなう。 1. 各外傷の原因説明 2. 各外傷の分類説明 3. 各外傷の症状説明 4. 各外傷鑑別診断説明 (問題演習含む)		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
2	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
3	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
4	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
5	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
6	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
7	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
8	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
9	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
10	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
11	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
12	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
13	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
14	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
15	中間試験	
16	整形外科問題演習	
17	整形外科問題演習	
18	整形外科問題演習	
19	整形外科問題演習	
20	整形外科問題演習	
21	整形外科問題演習	
22	整形外科問題演習	
23	リハビリテーション学問題演習	
24	リハビリテーション学問題演習	
25	リハビリテーション学問題演習	
26	リハビリテーション学問題演習	
27	リハビリテーション学問題演習	
28	リハビリテーション学問題演習	
29	リハビリテーション学問題演習	
30	期末試験	

科目名	臨床柔整学Ⅶ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	渡辺 潤		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中での柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷についての理論を植付け、柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>柔道整復師としての実務経験を活かしながら、以下の各項目に対し講義をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各外傷の原因説明 2. 各外傷の分類説明 3. 各外傷の症状説明 4. 各外傷鑑別診断説明 (問題演習含む) 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満了した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1～5	柔道整復学に必要な機能解剖	
6～10	上肢の外傷	
11～14	下肢の外傷	
15	中間試験	
16～21	臨床に沿った外傷	
22～28	外傷全般の鑑別・治療	
29	期末試験	
30	試験解説	

科目名	臨床柔整学Ⅷ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	杉浦 透		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復の臨床上において、必要不可欠な人体の構造と機能、鑑別が必要な疾患や整形外科的障害及びその病態生理、業務範囲内外の判断に必要な救急知識と関連法規等の知識を柔道整復師国家試験過去問の中から問題を抽出して演習・検討することにより柔道整復師としての知識を習得することを目標とする。		
授業内容	柔道整復師としての臨床経験を踏まえて、専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説をおこなう。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1~9	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
10	中間試験	
11~19	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
20	中間試験	
21~29	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
30	期末試験	
備考：		

科目名	臨床柔整学区	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	杉浦 透		
教員の実務経験	柔道整復師として病院、接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	平成30年度からの柔道整復学校養成施設カリキュラムでは国民の信頼と期待に応える質の高い柔道整復師を養成するため、「社会保険制度」「職業倫理」についても新設された。 そのために、学生の時から「医療経済」「柔道整復療養費受療委任の取り扱い」などを学び、柔道整復師として「医療人としての質の確保」することを目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の社会保障 2. 柔道整復師業務における療養費 3. 職業倫理 4. 国家試験に対応する全教科の復習 <p>これらの内容について、臨床実習の際や、卒業後の業務に対応できる様、講師の臨床経験をもって実践的に様々なケースをあげて学習する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	社会保険制度と柔道整復の職業倫理	著者名	全国柔道整復学校協会監修
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
1	全教科総合復習(試験含)	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	応用実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	工藤 久美子		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	認定実技審査及び国家試験対策として、「患者安全」という目的に沿った、柔道整復師、もしくは国家試験受験生として必要な実技能力を担保できるように、国家試験出題基準、認定実技審査要領の項目において、診察及び整復、検査の能力、固定の能力、口述の能力を体得するため、担当教員の臨床経験を活かし実践的に指導する。		
授業内容	柔道整復師としての現場経験を活かした視点で、以下の内容をで実践的に指導する。 1. 各外傷の概説 2. 診察と整復方法 3. 診察と検査方法 4. 固定方法		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	ガイダンス・固定材料作成 鎖骨骨折:整復	
2	上腕骨外科頸(外転型骨折):整復	
3	コーレス(Colles):整復	
4	肩鎖関節上方脱臼:整復	
5	肩関節前方脱臼:整復	
6	肘関節後方脱臼:整復	
7	肘内障:整復	
8	鎖骨骨折:固定	
9	復習	
10	中間試験	
11	中間試験	
12	上腕骨外科頸(外転型骨折):固定	
13	コーレス(Colles):固定	
14	第5中手骨頸部骨折・第2PIP関節背側脱臼:固定	
15	肋骨骨折・肩鎖関節上方脱臼:固定	
16	肩関節前方脱臼:固定	
17	肘関節後方脱臼:固定	
18	復習	
19	期末試験	
20	期末試験	
21	統合柔道整復実技演習	
22	統合柔道整復実技演習	
22.5	統合柔道整復実技演習	

科目名	応用実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小倉 秀樹		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復学理論や柔道整復学実技をもとに、柔道整復師が実際に業とする上肢外傷を想定し、機能解剖、触診法および鑑別診断など柔道整復師として必要な知識を習得する。</p> <p>国家試験、認定実技試験の内容に対応できる運動器外傷の総論、各論の知識の習得に努める。</p>		
授業内容	<p>柔道整復師としての現場経験を活かした視点で、以下の内容を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各外傷の概説 2. 整復方法 3. 固定方法 4. 国家試験に対応した運動器外傷の総論、各論 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	腱板損傷:検査法	
2	上腕二頭筋長頭腱炎:検査法	
3	大腿四頭筋打撲	
4	ハムストリング肉離れ	
5	膝関節側副靭帯	
6	膝前十字靭帯	
7	膝半月板損傷	
8	下腿三頭筋肉離れ	
9	復習	
10	中間試験	
11	中間試験	
12	下腿骨骨幹部骨折固定	
13	下腿三頭筋肉離れ	
14	アキレス腱断裂固定	
15	足関節外側靭帯損傷	
16	足関節外側靭帯損傷固定	
17	足関節テーピング(バスケット・ヒールロック)	
18	復習	
19	試験	
20	試験	
21	統合柔道整復実技演習	
22	統合柔道整復実技演習	
22.5	統合柔道整復実技演習	

科目名	画像評価実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小倉 秀樹		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復の臨床上において、必要不可欠な人体の構造と機能、鑑別が必要な疾患や整形外科的障害及びその病態生理、業務範囲内外の判断に必要な救急知識と関連法規等の知識を柔道整復師国家試験過去問の中から問題を抽出して演習・検討することにより柔道整復師としての知識を習得することを目標とする。		
授業内容	担当教員が現場経験を活かした視点で、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・理論編改訂 第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	著者名	(公社)全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	骨折の診察及び整復・鎖骨骨折, 上腕骨外科頸外転型骨折	
2	骨折の診察及び整復・Colles骨折	
3	脱臼の診察及び整復・肩鎖関節, 肩関節脱臼, 肘関節脱臼, 肘内障	
4	軟部組織損傷の診察と検査・腱板, 上腕二頭筋損傷	
5	軟部組織損傷の診察と検査・大腿部の損傷, 膝関節靭帯, 半月損傷	
6	軟部組織損傷の診察と検査・下腿部, 足関節損傷	
7	骨折の固定・鎖骨骨折, 上腕骨骨幹部骨折	
8	骨折の固定・Colles骨折, 第5中手骨頸部骨折	
9	骨折の固定・下腿骨骨幹部骨折, 肋骨骨折	
10	脱臼の固定・肩鎖関節脱臼, 肩関節脱臼	
11	脱臼の固定・肘関節脱臼, 第2PIP関節脱臼	
12	軟部組織損傷の固定・アキレス腱断裂	
13	軟部組織損傷の固定・足関節外側靭帯損傷(局所副子, テープ固定)	
14	軟部組織損傷の固定・膝関節内側側副靭帯損傷	
15	中間試験	
16	柔道理論	
17	柔道理論	
18	柔道実技	
19	柔道実技	
20	柔道実技	
21	柔道実技	
22	柔道実技	
23	期末試験	

科目名	総合実技Ⅲ	時間・単位	1単位・45時間(22.5コマ)
担当教員	松田 心一		
教員の実務経験	柔道整復師として病院、接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復を取り巻く環境は大きく様変わりし、柔道整復師に求められる知識・技術も変化している。柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図るために、高度の医学的知識の修得が必須である。また、実技を通してさらに実践的な柔道整復術の正しい理解を促すため講義を進めていく方針である。		
授業内容	認定実技審査及び国家試験対策として、「患者安全」という目的に沿った、柔道整復師、もしくは国家試験受験生として必要な実技能力を担保できるよう、全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編を教科書とし、国家試験出題基準・認定実技審査要領の項目において、診察及び整復・検査の能力、固定の能力、口述の能力を体得するため、担当教員の臨床経験を活かし実践的に指導する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	柔道整復学・実技編	著者名	全国柔道整復学校協会監修
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	臨床医学問題演習・解説	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9	復習問題演習	
10	復習問題演習・解説	
11	中間試験	
12	外科学問題演習・解説	
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20	総合復習問題演習	
21	総合復習問題演習・解説	
22	期末試験	
23	期末試験解説	

科目名	臨床実習Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	渡辺 潤		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復師として現場で活躍できるようにさまざま外傷に対応できるよう、基礎的部分の再確認を含め、実践的な対応能力の獲得を目標とする。		
授業内容	担当教員がそれぞれの現場経験を活かし、実践的な治療技術をみにつける。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	臨床の心構え	
2	臨床の心構え	
3	軟部組織損傷の対応	
4	軟部組織損傷の対応	
5	軟部組織損傷の鑑別	
6	軟部組織損傷の鑑別	
7	軟部組織損傷の治療法	
8	軟部組織損傷の治療法	
9	軟部組織損傷の後療法	
10	軟部組織損傷の後療法	
11	脱臼に対する対応	
12	脱臼に対する対応	
13	脱臼の鑑別	
14	脱臼の鑑別	
15	脱臼の治療法	
16	脱臼の治療法	
17	脱臼の後療法	
18	脱臼の後療法	
19	骨折の対応	
20	骨折の対応	
21	骨折の鑑別	
22	骨折の鑑別	
23	骨折の治療法	
24	骨折の治療法	
25	骨折の後療法	
26	骨折の後療法	
27	各外傷に対して	
28	各外傷に対して	
29	期末試験	
30	期末試験	

科目名	臨床実習Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	八重樫・杉浦・松田		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>柔道整復師が日常業務を行う上で、医科との連携、鑑別・評価、整復法を習得するだけではなく、様々な疾患に対する対応力を養うことが必要である。</p> <p>講義は、座学や実技を主体とし、学生間で相互に高め合えるようにより臨床に即した講義とする方針である。</p>		
授業内容	<p>担当教員が現場経験を活かした視点で、実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>以下の項目について演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接 2. 医家との連携 3. 各部位別の評価法 4. 物理療法 5. 運動・手技療法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	医療面接	
2	医療面接	
3	医療面接	
4	医療面接	
5	医家との連携	
6	医家との連携	
7	医家との連携	
8	医家との連携	
9	各部位の評価法	
10	各部位の評価法	
11	各部位の評価法	
12	各部位の評価法	
13	物理療法	
14	物理療法	
15	物理療法	
16	物理療法	
17	運動・手技療法	
18	運動・手技療法	
19	運動・手技療法	
20	運動・手技療法	
21	ケーススタディ	
22	ケーススタディ	
23	ケーススタディ	
24	ケーススタディ	
25	ケーススタディ	
26	ケーススタディ	
27	ケーススタディ	
28	ケーススタディ	
29	ケーススタディ	
30	ケーススタディ	

科目名	統合教育科目(Ⅱ)	時間・単位	90時間・6単位・45コマ
担当教員	工藤・武藤		
教員の実務経験	柔道整復師として接骨院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	柔道整復の臨床上において、必要不可欠な人体の構造と機能、鑑別が必要な疾患や整形外科的障害及びその病態生理、業務範囲内外の判断に必要な救急知識と関連法規等の知識を柔道整復師国家試験過去問の中から問題を抽出して演習・検討することにより柔道整復師としての知識を習得するし、国家試験に合格することのできる総合的学力を身につけることを目標とする。		
授業内容	各教員がそれぞれ培った現場経験を活かしながら、解剖学・生理学・病理学・運動学・関係法規・一般臨床医学・リハビリテーション医学・整形外科学・外科学概論・柔道整復学等について、担当の教員が講義を行います。 1. 各分野の問題演習 2. 各分野の解説		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	回	講義内容
1	<p>上肢の外傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷</p>	24	<p>頭部・体幹の外傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷</p>
2		25	
3		26	
4		27	
5		28	
6		29	
7		30	中間試験
8		31	<p>下肢の外傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷</p>
9		32	
10		33	
11		34	
12		35	
13		36	
14		37	
15	中間試験	38	
16	<p>頭部・体幹の外傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷</p>	39	
17		40	
18		41	
19		42	
20		43	
21		44	
22		45	期末試験
23			